透析患者を支える家族との関わり
－外来透析患者の家族へのアンケートを通して－

河北美智子，田中万寿美，柏屋　英美，長谷川美和
原田　知美，小熊佐智子，浜田　直子，尾田　和子
佐々木まり子[1)]，荒川美和子[1)]，永原美智子[2)]，小林身知子[2)]

札幌社会保険総合病院　3階東病棟，透析室[1)]，H・Nメディック[2)]

近年、透析患者の増加の一方で、高齢者だけではなく合併症などにより、家族が通院や日常生活の介助を必要とする患者も少なくはない。日頃から危惧はしていても、実際にそのような状況下において、対処に苦慮しているのが実情でもある。今回、私たちは透析患者を支える家族の状況を把握し、今後の家族への関わり方について検討したので報告する。

キーワード：透析患者・合併症・患者家族

目　的

透析を支える家族の状況を把握し、今後の関わり方について検討した。

方　法

外来透析の患者119名（当院39名、関連施設80名）を対象にアンケート調査（無記名方式）を実施した。

結　果

回収率74%（89名）。介護者の年齢40から50代が45%、60から70代が40%（図１）。患者の性別男性52%、女性48%。患者の年齢40代11%、50代26%、60代30%、70代19%（図２）。

透析年数５年未満49%、５から10年26%、10年以上12%、ADLが自立している患者89%（図３）。不安がある82%、内訳は患者の病気22%、患者の将来18%（図４）、自分の体力16%、自分の将来16%。（複数回答）不安を相談する人がいる52%、内訳は家族63%、友人19%、医療者15%。（複数回答）（図５）心の支えになっている人がいる90%、いない８%、内訳は家族70%、医療者18%、友人８%。（複数回答）

考　察

維持透析患者の家族は、危機的状況にいつ直面するかもしれないという不安を抱えている場合が多い。精神的に支えられ、親身になって話を聞いてもらいたいという欲求を日頃から持ち、多くの家族は家族メンバー、親族、友人に気持ちを表出していくものと考える。これをふまえアンケートの結果を見ると、不安を相談する相手の内訳としては家族が圧倒的に多く、医療従事者との差が明らかとなった。

岡堂哲雄らは、医療従事者に対する受容と支持と慰めに対するニードについて「一般的な概念として、家族は患者自身のことだけではなく、『家族を支える立場』としての不安や様々な思いを医療者に相談することに遠慮があるためか、このニードは積極的に表出されない。」と報告している。今回、私たちのアンケート調査においても、対象となった透析が比較的自立しているケースが多かったため、患者、家族が医療従事者に不安を相談する機会がすくなかったことも一因と考えられた。

日常看護において、私たちは患者が合併症などで、介護を要する状況に陥って初めて家族に視点を向けていくことが多かったが、これでは十分なコミュニケーションは図れない。前述の岡堂らの報告にもあるように、「医療者への遠慮」という心理状態をふ

まえ、患者がある程度自立していたとしても、早期から家族全体をも対象とした援助を行うことが大切であると思われた。コミュニケーションといっても特別時間を持つというものではなく、日常では見かけたら必ず声をかけるという程度で十分であり、そのような普段からの関係を築いておくことで、何かあった時でも医療者が良き相談相手になり得るものと考える。

透析患者の家族への関わり方として

① 患者に集中しがちであった援助から、家族の精神面にも視点を向ける。

② コミュニケーションの方法を早期に確立し、医療者との信頼関係を築く。

以上が挙げられた。

おわりに

今回、このアンケート調査をし、改めて家族をケアの単位として捉え援助していくことの大切さを再確認できた。今後は個々の家族状況を的確に捉え、それぞれに応じたコミュニケーション手段を見出していくことが課題である。

文　献

1）岡堂哲雄，鈴木志津枝：危機的患者の心理と看護．初版第9刷発行，中央法規出版，120～144，1994年

2）長谷川浩，藤枝知子：人間対人間の看護，第1版22刷，医学書院，131～147，1991年

3）深瀬須加子：患者そして家族をどう教育するか．

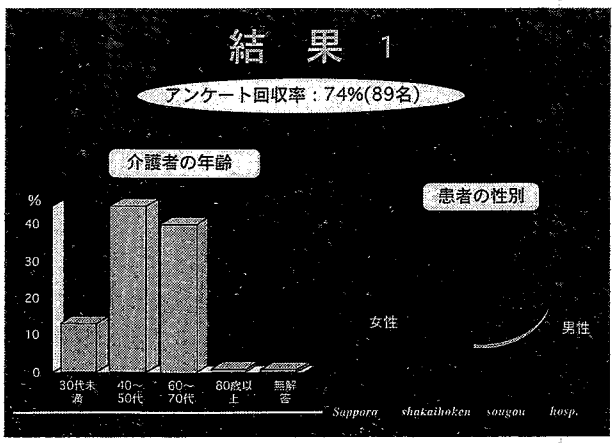

図1

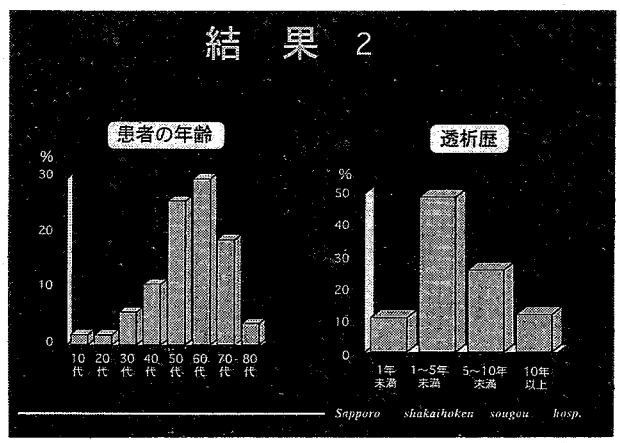

図2

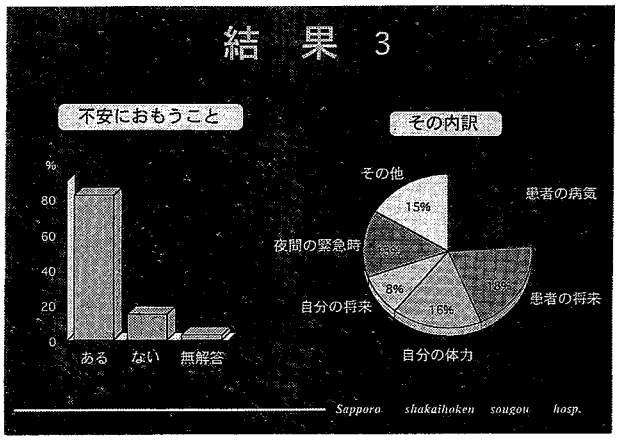

図3

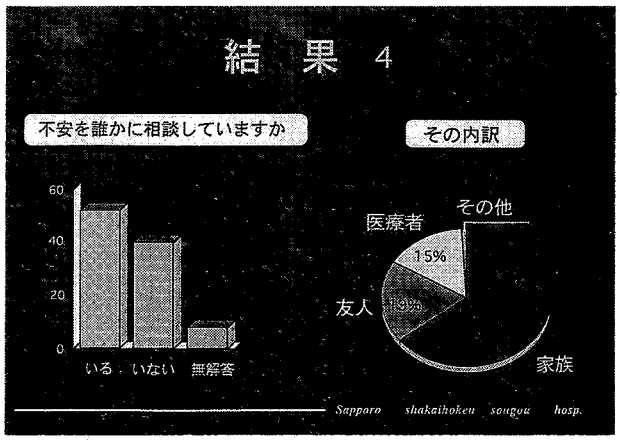

図4

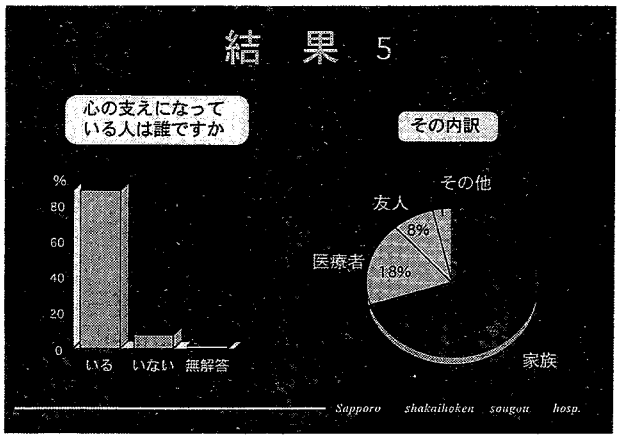

図5

月刊ナーシング，7（1）22～27，1987年
4）日本透析学会：第43回（社）日本透析医学会学術集会・総会特別会，日本透析医学会雑誌31，1998年
5）小中節子，丸山千枝，ほか：透析患者における要介護患者の実態，臨床透析，10（2）17～21，1994年

The relationship between families that support dialyzed patients.
－A question sheet study for families of dialyzed patients in the outpatient clinic－

Michiko KAWAKITA, Masumi TANAKA, Hidemi KASHIWAYA, Miwa HASEGAWA
Tomomi HARADA, Sachiko OGUMA, Naoko HAMADA, Kazuko ODA
3rd floor east wing nurse station, Sapporo Social Insurance General Hospital

Mariko SASAKI, Miwako ARAKAWA
Dialysis room, Sapporo Social Insurance General Hospital

Michiko NAGAHARA, Michiko KOBAYASHI
H.N. Medic

In recent years, according to an increase of patients who receive regular dialysis. A large number of these patients require their families' support on an daily basis and regulary attend clinics because of their medical complications as well as their age. It is actually very difficult to treat their problems in spite of spite of critical awareness. We reported how to care for the patients based on the circumstances of the family.

This study was performed by unsignitured question sheet for 119 patients and families. There were 89 replies and the statistics showed 82% of families have anxieties about their own health and future as well as patients. The statistics also showed families depend on the mental support of other family members much than medical staff. It is supposed that medical services are mainly avoided for sick patients and the communication with untroubled cases do not help to bulid a good relationship. This study indicates that total care of families, not only of patients, is required to establish a good relationship with their families.